

# 聴覚特別支援学校における 聴覚過敏についてのアンケート調査

大阪府医師会耳鼻科対策委員会

西村将人 佐野光仁 愛場庸雅 大平真司 武市直範 川寄良明  
菊守 寛 高島凱夫 玉城晶子 遠山祐司 松原謙二 武本優次  
田中英高 益田元子 伯井俊明 浅井英世

# 「聴覚過敏」の確立した定義は未だない

- ・ 「疼痛性の聴覚過敏」 (Mathisen 1969)
- ・ 「通常的环境音に対する異常な耐性」 (Vernon 1987)
- ・ 「一般の人にとって内的に脅迫的でもあるいは不快なほど大きくもない音に対して、執拗に大げさにあるいは不適切に反応したり苦情を言ったりすること」 (Klein 1990)
- ・ 「日常的环境音に対する著しい不耐性」 (Khalifa 2002)
- ・ 「音への耐性の低下」 (Jastreboff 2004)



# 聴覚過敏の要因説

- ・ 末梢要因

顔面神経麻痺、アブミ骨摘出、Hunt症候群、  
騒音性難聴、外リンパ瘻、メニエール病、

- ・ 中枢要因

偏頭痛、抑うつ、軽度頭部外傷、  
発達障害

- ・ 内分泌要因

副腎機能低下症

- ・ 感染性要因

ライム病、梅毒

(熊谷ら Audiology Jpn. 2013)

# 対象・方法

## <対象>

大阪市立聴覚特別支援学校の小学部～高等部計130名

## <方法>

- ・ Anderssonらが2002年使用した聴覚過敏に対する質問用紙から一部抽出・和訳し、保護者に自由回答の形で配布・回収した。
- ・ 質問紙に記載した聴覚過敏の説明は「普通の人よりも、ある特定の音が大きく聞こえてしまうために、日常生活のさまたげになるような症状」とした。



# 結果(1)

＜回収率＞ 30例(23%)

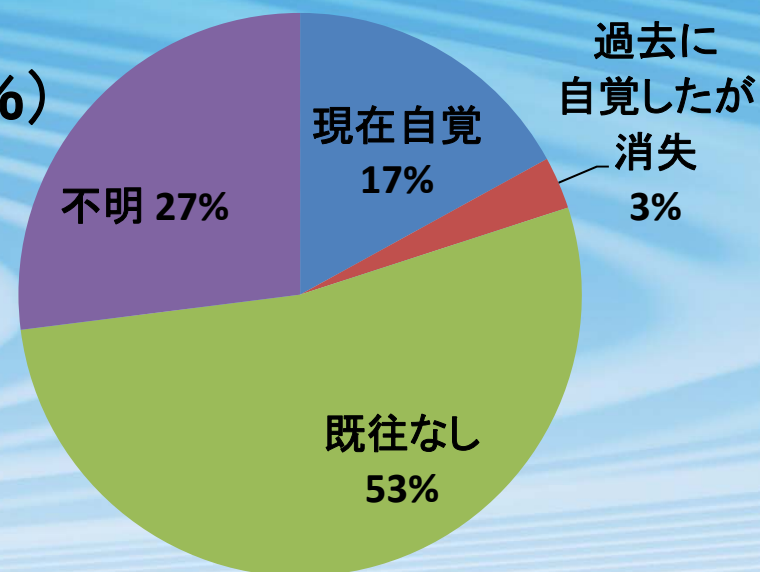
＜罹患率＞

・聴覚過敏を現在自覚する症例:5例(17%)  
(補聴器装用:4例、人工内耳装用:1例)

・過去に自覚していたが  
現在消失していた症例:1例(3%)  
(補聴器装用例)

・聴覚過敏の既往のない症例:16例(53%)

・不明:8例(27%)



## 結果(2)

### <発症時期> (回答:3例)

- ・6歳:1例
- ・小学部低学年頃:1例
- ・小学部4年:1例

### <発症状況> (回答:2例)

- ・急激な発症:1例
- ・徐々に発症:1例

### <進行状況> (回答5例)

- ・寛解増悪を繰り返す:1例
- ・不変:3例
- ・訴えなくなった:1例



## 結 果(3)

### <音の種類>(回答6例)

- ・サイレン
- ・笛の音
- ・叫び声
- ・エレベーターの警告音
- ・工事現場の音 など

### <対処法>(回答1例)

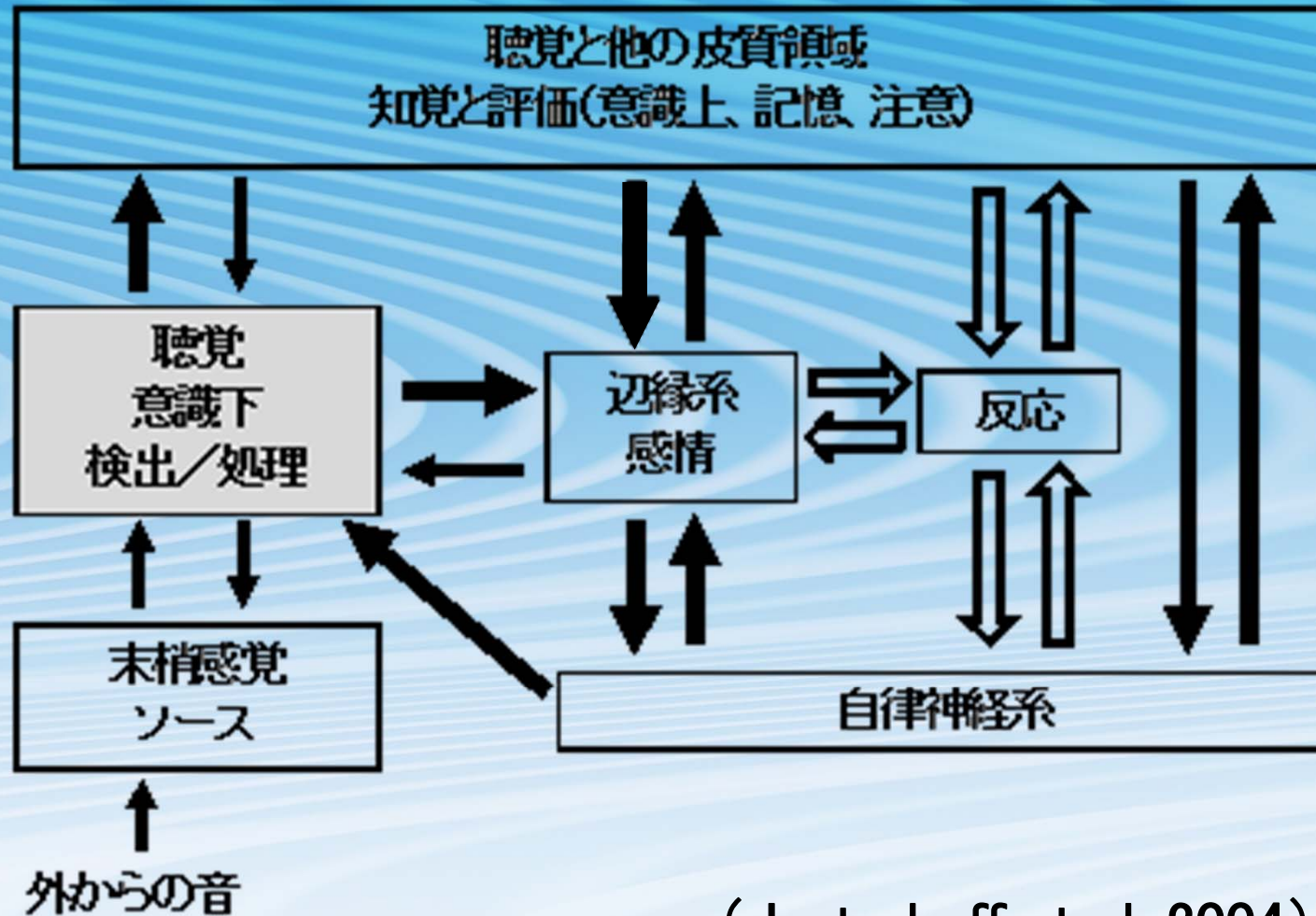
- ・補聴器装用例で自身が補聴器のスイッチを切って対応

# 考 察

- ・ 今回の検討は聴覚特別支援学校1校での検討で全例難聴者であったが、Anderssonらが一般人を対象としたアンケートでの罹患率8%より多く、中川らが神奈川県下の知的障がい特別支援学校で施行したアンケート調査の小学部で約70%、中学部・高等部で約40%とする報告より少ない結果であった。
- ・ 人工内耳の症例が1例あり、特定の音だけに聴覚過敏症状を訴えることより、中枢性要因の関与が疑われる症例と思われた。
- ・ 今回の検討では消失した例は1例であり、卒業後を含め検討する必要があると考えられた。



# 神経生理学的モデルにおける 中枢性聴覚過敏説



(Jastreboff et al. 2004)

# 今後の展望

## ＜今後検討したい検討事項＞

- ・ 広汎性発達障がい例を含め他校での検討
- ・ 健聴児での防具装用の離脱について検討
- ・ 難聴児での補聴デバイス装用困難例の検討
- ・ まず症例数を把握し、学校生活に支障となる聴覚過敏を訴える生徒に対し個別にどう対処していくかを教育機関と医療機関で検討することが必要

## ＜今後期待される検討事項＞

- ・ 神経伝達物質や受容体の障害の検討
- ・ 機能的画像診断による聴覚過敏の障害局所の同定
- ・ 遺伝子的解析



# まとめ

- ・ 聴覚特別支援学校における聴覚過敏について保護者にアンケート調査を施行した。
- ・ 聴覚過敏を訴えた、又は過去にあったと回答した症例は6例(20%)で、Anderssonらが一般人を対象としたアンケートより多く、中川らが神奈川県の知的障がい特別支援学校で行ったアンケート調査より少ない結果であった。
- ・ 聴覚過敏を引き起こす音は、サイレン、笛の音、叫び声、エレベーターなどの警告音などであった。
- ・ 人工内耳装用児で聴覚過敏を訴えた症例が1例あり、特定の音だけに聴覚過敏症状を訴えることより、中枢性要因の関与が疑われる症例と思われた。

# 謝 辞

今回のアンケート調査に御協力頂きました  
大阪市立聴覚特別支援学校中瀬浩一先生、  
小児精神科領域の設問にご協力頂きました  
大阪府医師会精神保健対策委員会西川瑞穂  
先生に感謝申し上げます。